

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第24号

2014. 1. 3



げんべいぬのびきのたき
『源平布引滝』

文楽応援団ホームページ <http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団

検索

携帯QRコード
はこちら



文楽応援団ツイッター <http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

文楽応援団の自己紹介 Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②文楽関係の展示
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

新規団員を募集します

文楽の普及のためにあなたも応援団に参加してください
国立文楽劇場の友の会会員であることが必要です
募集要領・申込用紙は国立文楽劇場1階展示室の
文楽応援団連絡デスクにあります。締切は平成26年1月26日(日)です



ににかむろ
『二人禿』

〒542-0073 大阪府中央区日本橋1-12-10
国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当
TEL 06(6212)2531(代) FAX 06(6212)1202

「首」「人形」

早稲田大学名誉教授

鳥越文蔵

かつて淡路島で耳鼻咽喉科を開業しておられた松谷辰造氏は大の文楽愛好家で、淡路島に残る人形一座のよきパトロンであり、ご自身も看護婦さん達を総動員して人形を操ることもなさった。文楽の技芸員たちがたいへんお世話になったことも語り継がれている。

松谷家には首の名品が伝えられていた。中でも谷崎潤一郎が手に入れたいと強く希った「深雪」の首は、今早稲田大学演劇博物館に収まり、館の名品の一つになっている。これらのことは次女の高見安規子編『昔がたり』に詳述されているので参照されたい。

この「深雪」が演博に収められるに当り松谷早苗刀自が、私に取りに来るようにと云われた。私はすでに館長を退いていたのだが、先様のご指示に従うのが礼儀なので館員一人を伴って伺った。

松谷家にはご親族も参集されており、「深雪」とのお別れの会が行われた。テーブルの上座に「深雪」を据え早苗刀自をはじめご親族、私たちが並び、尾頭付きの鯛は勿論、旬の魚も美味しい酒もという儀式であった。

「深雪」以外にも見台や衣裳など上演に当って使用されていたものゝ道具も頂戴したが、これらは配送し「深雪」だけは二人でその日の中に演博へ収めたのであった。首を大切に守っていられた家の掟は演博でも継承している。

*

ある資産家のお嬢さんの送迎の同伴が若きころの二代目野澤喜左衛門というのだから、長じても文楽との縁は切れなかった方がある。するどい鑑賞眼の持ち主で浄瑠璃作者としても名を残していられる。名は鷺見房子。

鷺見家には二代目桐竹紋十郎からもらった「お染」の人形があった。鷺見さんには二人の娘さんがあり、どちらに譲るか争いのもとになってはいけないので、自分が生きている中に養女にやろう（寄贈しよう）と思っていると、訪ねて来ていた文化庁の人たちに話された。文化庁の面々が是非見たいと云い出したので、「お染」の居る別荘へ案内された。いつも入る玄関がどうしても開かない。挙句、文化庁の面々が力づくで雨戸をはずし内に入られたという。鷺見さんいわく「お染」が怒って開けなかったのだと。人形や面には霊力があるという話を私は沢山聞いている。私は面や首の霊力を信じている者の一人である。

やっぱり文楽はやめられない！ 其の十九

『伊賀越道中双六』

ゆかりの地を訪ねて

長 恵子

十月十六日（水）第九八回文楽のつどい『伊賀越道中双六』ゆかりの地バスツアーに参加しました。十一月文楽公演にちなみ仇討の現場となった三重県伊賀市を訪れます。

今回のバスツアーは国立文楽劇場友の会とNPO法人人形浄瑠璃文楽座との初の共催ということ。二台のバスで劇場前を出発。一号車には鶴澤燕三さん、二号車には吉田和生さん、吉田玉女さんも同乗し、お話を伺いながらの贅沢な移動です。私が乗った一号車では燕三さんが「シートベルト締めながら三味線弾くの初めて」と言いながら沼津の段冒頭「東路にここも」の節を私達に教えてくださいました。滅多にない貴重な体験に参加者一同大喜びしながらの約九十分、伊賀上野に到着です。

まずは吉丸雄哉先生（三重大学文学部准教授）のお話「伊賀越の仇討、その虚と実」を地元の方々と共に拝聴。実際の仇討事件と物語の違いや三大仇討のなかの伊賀越の物語を「父（兄）性の物語」として捉えるなど、作品を深く理解するための情報がつまった密度の濃い一時間で

した。次に技芸員の方々からも伊賀越に関するお話などを伺い昼食へ。

昼食後は仇討の現場となった鍵屋の辻へ移動し伊賀越資料館、数馬茶屋などを見学。資料館では荒木又右衛門自筆の起請文や鍵屋の辻での仇討場面を描いた錦絵などを拝見しました。実際に現場を歩くと本当にあったことなのだと思えます。

次は上野公園へ移動して自由散策。伊賀上野城や忍者博物館、芭蕉翁記念館や俳聖殿、伊賀信楽古陶館など各々興味のあるところを観て歩きました。

帰路のバスは技芸員の方々が入れ替えて同乗し、和生さん玉女さんからは「通し狂言で長いですが、敵討のプロセスを楽しんでいただき何度も劇場に足をお運びください」とのお言葉を頂戴し、無事劇場へ到着。

今回のバスツアーのように文楽を通して新しい経験をすることができ、また知識が広がりました。「やっぱり文楽はやめられない！」



いがごえどうちゆうすごろく
『伊賀越道中双六』

最近の活動風景



大和郡山城



源九郎稲荷神社



数馬茶屋



伊賀上野城



寺田屋



荒木又右衛門
屋敷跡



河合又五郎
首洗供養地藏池



伊賀越資料館

ゆかりの地めぐり

解説風景

展示室で



織田作 ブラザ



文楽公演&イベント



内子座



蔵しっくホール



エアポート文楽
002 便



東高津宮にての
イベント

文楽応援団 東西と一ざい



- *8月21日(水)「文楽、キタに来たる！」第二弾が阪急うめだホールで行われました。
- *8月28日(水)初代竹本義太夫 300 回忌大法要と 300 回忌記念公演が四天王寺で行われました。
- *9月1日(日)大阪文化祭賞贈呈式が阪急百貨店うめだ本店“祝祭広場”で行われました。
(「第13回文楽若手会」の『絵本太功記』出演者一同がグランプリに選ばれました。)
- *10月18日(金)大阪国際空港で文楽ミニ公演「エアポート文楽 002 便」が行われました。
- *10月20日(日)蔵しっくホール(泉佐野市)で文楽ミニ公演が行われました。
- *文楽応援団 HP 来訪数 37,678 人、文楽応援団ツイッターのフォロワーが 894 人になりました。(2013.12.14 現在)
- *次回公演予定
東京:2月8日(土)~2月24日(月)
大阪:4月5日(土)~4月27日(日)
※4月16日(水)は休演日

OUTLAW WOMAN

The elegant courtesan Akoya in this month's *Dannoura Kabuto Gunki* is an unusual bunraku character. Bunraku contains its share of villainesses (Yashio in *Meiboku Sendai Hagi*, Iwafuji in *Kagamiyama...*), but few real female outlaws. Akoya is one. Not an evildoer, but outside the law by being on the losing side in war and lover of the losing general Kagekiyo.

Kagekiyo narratives began soon after his death in 1196, but Akoya is legendary and her historicity is hard to verify. In medieval ballads she tends to expose Kagekiyo to his enemies, an ambivalent anti-heroine who meets a bad end. But ambivalence in bunraku is hard to play onstage, as there are a limited number of head styles, each for a stock role type whose characteristics are simple and known to the audience. When Akoya first appeared in bunraku in its earliest days, in *Shusse Kagekiyo* (1685) by the master Chikamatsu Monzaemon, she was more villainess than outlaw. Starting out loyal to Kagekiyo, she betrays him out of jealousy over another woman and, like the Greek Medea, kills their two children before his eyes.

This month's Akoya is from a later period (1732) when the faithful courtesan lover was already a familiar type in theatre and in the popular stories from which it sprang. Her man is an outlaw or fugitive, often with a virtuous cause, whom she aids, abets, protects and hides – sometimes quite literally under her skirts (*Sonezaki Shinju*). For this unflinching loyalty she suffers great hardship, but she stands by her man to the end. Although fearless, she is essentially passive, and is only an outlaw by association with an outlaw man. Kabuki developed more active outlaw women, facilitated by the *onnagata* female-role actors who, as “fake” women, could portray aggression safely in a feudal society.

The bunraku outlaw woman is a rare treat. Wearing the face of the beautiful and good, she hides her strength within, as befits the delicate doll.

Faith Bach
Earphone Guide



だんのうらかぶとぐんき
『壇浦兜軍記』

- 7/20 夏休み文楽特別公演初日。
展示室解説、演目解説など、8月5日まで。
応援団通信第23号、3,000部発行。
- 8/ 4 木村さんより解説依頼、15名。担当:木田、杉本、安藤。
- 8/15 学習会「丸本を読む会」①出席:11名。
- 8/17 スタッフ会議。出席:10名。
- 8/29 学習会「丸本を読む会」②出席:14名。
- 8/31 第5回研修会、出席:33名。
学習会「大阪のたべもの・《鱧の皮》と《夫婦善哉》」講師:羽田
学習会「『伊賀越道中双六』粗筋前半」講師:榊田
- 9/11 上猛二氏より出前解説依頼。担当:荒木、長、岡持、榊田、斎藤、安藤。
応援団通信第24号第1回編集会議。出席:3名。
応援団HP委員会。出席:6名。
- 9/12 第5回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
学習会「丸本を読む会」③出席:11名。
- 9/25 「演目ゆかりの地めぐり」大和郡山城跡、永慶寺、
荒木又右衛門屋敷跡、寺田屋など。参加:4名。
- 9/26 学習会「丸本を読む会」④出席:16名。
- 10/10 学習会「丸本を読む会」⑤出席:16名。
- 10/12 スタッフ会議。出席:8名。
- 10/19 第6回研修会、出席:37名。解説日程調整。
学習会「『伊賀越道中双六』粗筋後半」講師:榊田
11月公演演目説明、講師:藤田。
- 10/22 文楽応援団写真Ⅰ初作成Ⅰ。世話人:荒木、安藤。
応援団HP委員会。出席:6名。
- 10/24 第6回研修会報告書発送事務作業。世話人:榊田、松井、安藤。
学習会「丸本を読む会」⑥出席:16名。
- 10/30 文楽応援団写真Ⅰ初作成Ⅱ。世話人:荒木、安藤。
- 11/ 4 11月公演初日。展示室解説、演目解説など、11月24日迄。
- 11/ 6 「大阪あそび」より解説依頼、20名。担当:岡持、安藤。
- 11/ 7 学習会「丸本を読む会」⑦出席:14名。
- 11/ 8 応援団通信第24号第2回編集会議。出席:3名。
- 11/12 柴島高校より解説依頼、16名。担当:折井、木田、斎藤、安藤。
- 11/14 応援団通信第24号第3回編集会議。出席:2名。
応援団HP委員会。出席:4名。
- 11/15 高槻市「まなびや」より解説依頼、14名。
担当:岡持、長田、斎藤、村上。
- 11/21 学習会「丸本を読む会」⑧出席:14名。
- 11/22 応援団通信第24号第4回編集会議。出席:2名。
- 11/30 スタッフ会議。出席:9名。
- 12/ 3 応援団通信第24号第5回編集会議。出席:2名。
- 12/ 5 学習会「丸本を読む会」⑨(休講)。
- 12/ 7 「文楽ゆかりの地」を訪ねるバツア。参加:25名。
- 12/ 8 「演目ゆかりの地めぐり」琵琶湖周辺、京都市内。参加:4名。
- 12/14 第7回研修会。解説日程調整。出席:39名。
初春公演演目説明。講師:藤田。
学習会「壇浦兜軍記」を読む。
- 12/19 応援団通信第24号第6回編集会議。出席:3名。
第7回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
学習会「丸本を読む会」⑩。
- 12/22 写真Ⅰ初作成Ⅰ。世話人:荒木、安藤。
- 12/27 写真Ⅰ初作成Ⅱ。世話人:荒木、安藤。
応援団HP委員会。出席:5名。

文楽公演

平成26年3月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

- 演目【昼の部】「解説」『しょううつしあさがおぼなし生写朝顔話』
- 【夜の部】「解説」『はなくらべしきのことぶき花競四季寿』 『せい すい きひらかな盛衰記』

地方公演チケットお問い合わせ先

3月1日(土)	刈谷市総合文化センター(愛知県)	0566-21-7430	3月10日(月)	あましんアルカイックホール・オクト(尼崎市)	06-6487-0810
2日(日)	扶桑文化会館(愛知県丹羽郡)	0587-93-9000	12日(水)	メディキット県民文化センター(宮崎市)	0985-28-3210
4日(火)	大田区民プラザ(東京都大田区)	03-3750-1611	14日(金)	サンパール荒川(東京都荒川区)	03-3802-7111
6日(木)	戸畑市民会館(北九州市)	093-562-2655	15日(土)	三重県文化会館(津市)	059-233-1122
7日(金)	アステールプラザ(広島市)	082-244-8000	16日(日)	石川県立音楽堂(金沢市)	076-232-8632
8日(土)	倉敷市芸文館	086-434-0010	18日(火)	越谷コミュニティセンター(埼玉県)	048-985-1112
9日(日)	姫路市文化センター(小ホール)	079-298-8015			

文楽応援団通信 第24号 2014年1月3日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-2531(代) FAX06-6212-1202